

図 5

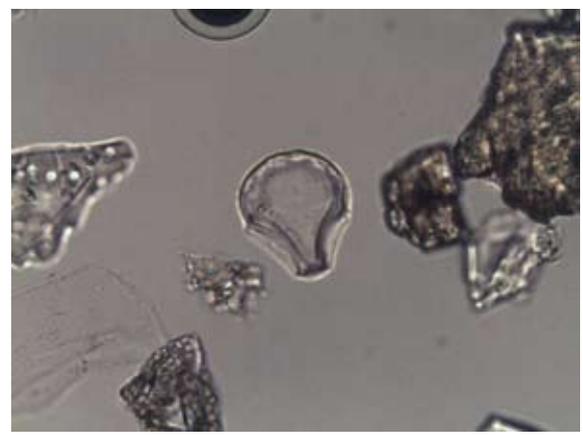


図 6 イネ



図 6 ヨシ

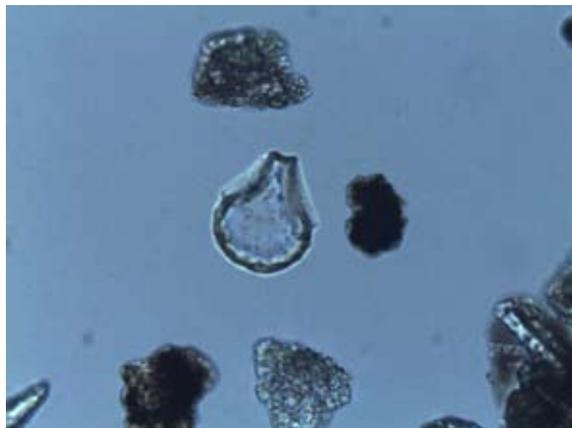


図 7 イネ

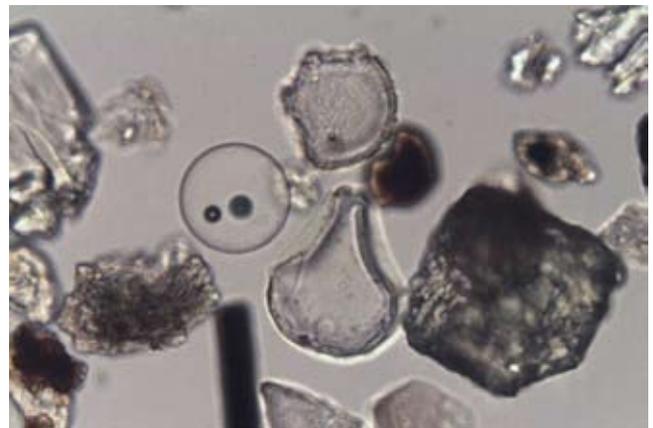


図 6 イネ

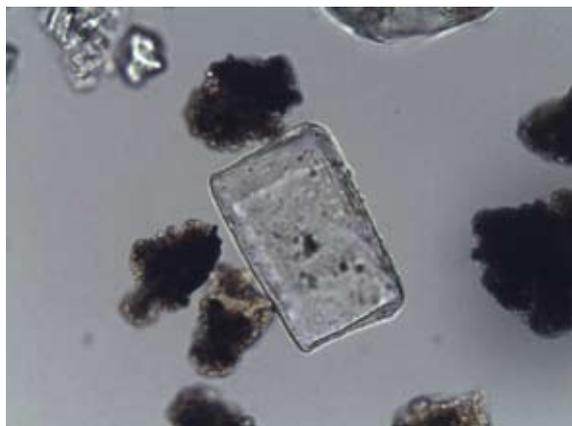


図 7 キビ

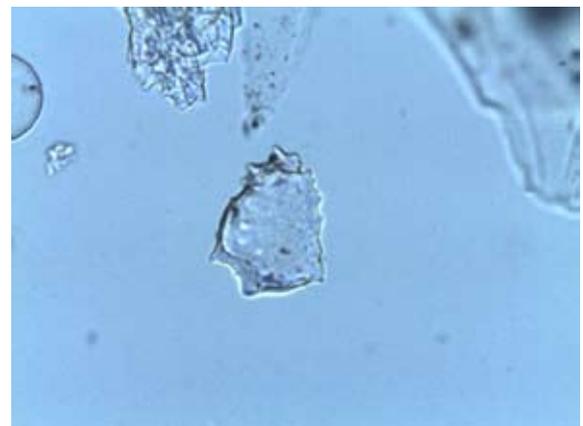


図 6 タケ亜科

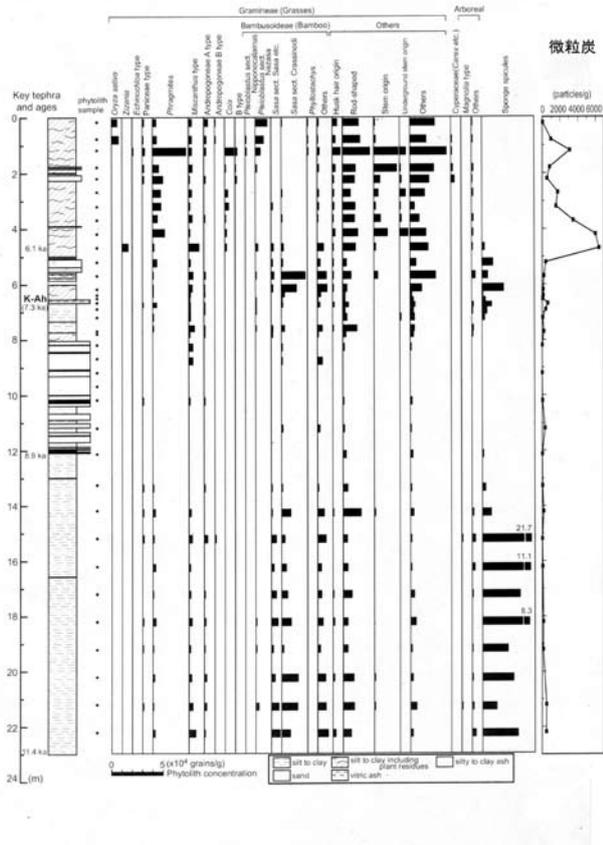


図 8

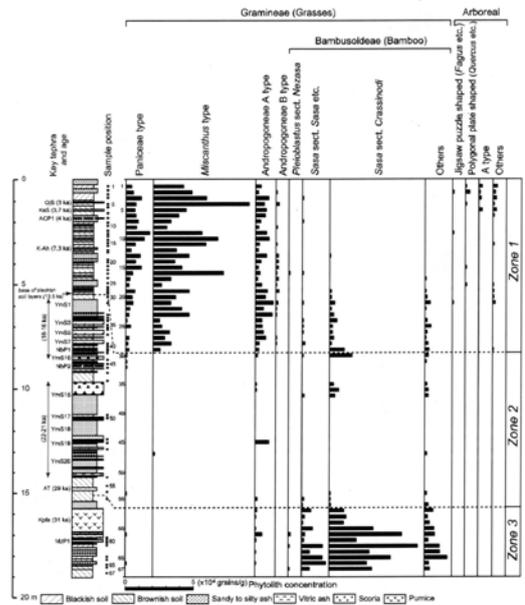


図 5 調査断面における土壌層の植物柱状体ダイアグラム
Fig. 5 Phytolith diagram of soil layers in the studied section

生の衰退は、最終氷期末期の寒化によるものかもしれない。また、阿蘇火山では約 22~16 cal ka の時期に、中岳とその周辺域で爆発的な噴火が間欠的に発生し、カルデラ東方域を中心に多量のテフラ（スコリアと火山灰）が堆積している（宮録ほか、2004）。気候の寒化とともに、急速なテフラの堆積によって、地表では植生が十分に繁茂できなかった可能性が考えられる。そうした植生量の少ない環境は約 16,000 年間続いたが、約 13.5 cal ka を境にして、急速に植生量の多い環境へと変化した。初期にミヤコザサ節などササ科の侵入が認められるが、約 8 cal ka 以降はほとんどみられなくなる。完新世にあたるこの時期において、調査地付近では

図 9

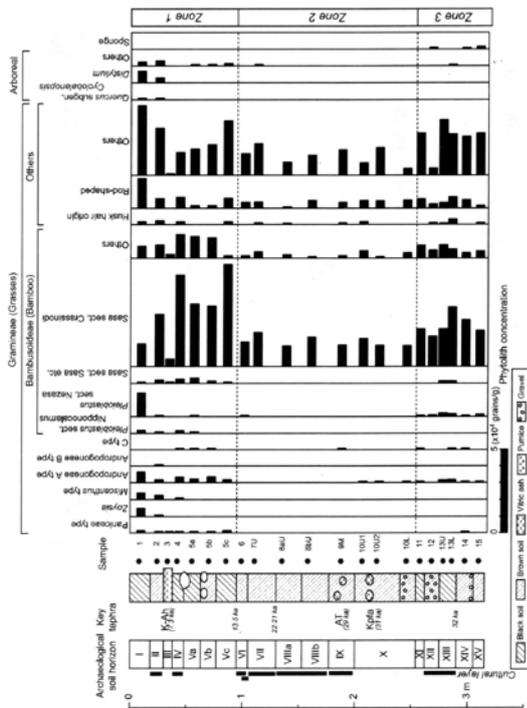


図 5 河原第 3 遺跡の調査断面における土壌層の植物柱状体ダイアグラム
Fig. 5 Phytolith diagram of soil layers in the studied section at the Kawabara No.3 archaeological site.

図 10